

月刊しばうら

2026年5月号

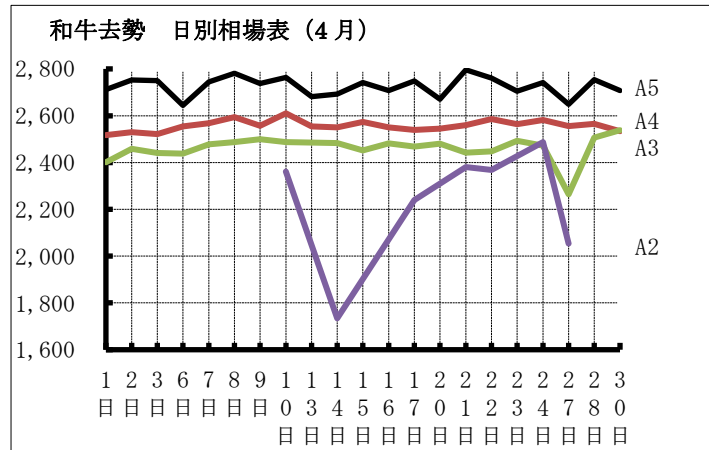
牛肉営業部

<4月の相場動向>

ゴールデンウィークを控えた4月は焼き材の需要期にあたり例年相場が上昇するが、今年は出荷頭数の減少に加え、輸入牛肉高騰による国産牛への代替需要から低位等級を中心に想定以上の引き合いが強まった。

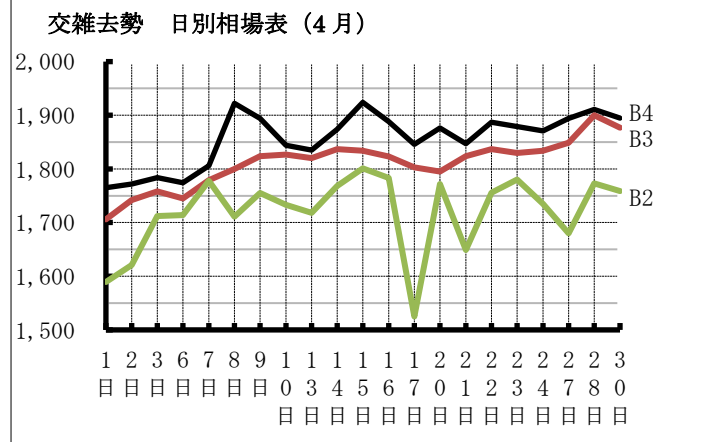
和牛は量販店・飲食チェーン店での低価格帯の需要が高まるなか、低・中位等級や和牛経産に需要が集中し相場を押し上げ、和牛2~4等級は前年比・前月比ともに大幅上昇となった。

交雑牛も月初こそ買いが慎重だったが、2週目を以降は頭数確保のために買いが活発化し、前年・前月比を上回る相場展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,736円	+203円 108.0%	+88円 103.3%
A4	2,559円	+277円 112.1%	+101円 104.1%
A3	2,469円	+303円 114.0%	+128円 105.5%
A2	2,136円	+218円 111.4%	+229円 112.0%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,857円	+102円 105.8%	+138円 108.0%
B3	1,808円	+183円 111.3%	+131円 107.8%
B2	1,729円	+214円 114.1%	+115円 107.1%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,362円	+170円 114.3%	+54円 104.1%

<5月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、3月の輸入量は前年同月比11.4%増の3万4,514tで、チルドは3.7%増の1万3,852t、フローズンは17.3%増の2万662tとなり、ともに前年同月比・前月実績を上回った。豪州産は前年の大幅減の反動から前年同月比26.1%増となった。

農畜産業振興機構の予測によると、4月の牛肉輸入数量は前年同月比7.7%減の4万9,000t(チルド5.6%減・冷凍8.5%減)、5月は14.9%減の4万1,200t(チルド24.2%減・冷凍10.1%減)としている。

輸入牛肉は現地価格の高止まりや円安の影響を背景に、4月は主要輸入先である米国産チルドの減少からやや前年同月を下回ると予測され、5月は豪州産の通関集中はないと見込まれていることから前年同月を大きく下回ると予測されている。

輸入牛肉通関量		3月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,693	6,630	116.0%
	米国	4,536	5,441	83.4%
	その他	1,623	1,285	126.3%
	合計	13,852	13,356	103.7%
フローズン	豪州	9,871	7,304	135.1%
	米国	7,654	5,978	128.0%
	その他	3,137	4,331	72.4%
	合計	20,662	17,613	117.3%

出典：食肉速報 単位：t

<5月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、全体で前年比96.5%の7万8,800頭で、品種別にみると和牛は11.4%減の3万8,200頭、交雑種は6.2%減の1万8,900頭、乳用種は0.6%減の2万1,200頭と予測している。

東京食肉市場の5月のと畜頭数は6,600頭(前年比94.0%)を予定している。

<5月の牛枝肉相場見通し>

今年のゴールデンウィークは5連休となり例年以上の行楽・宿泊需要が期待される。とりわけ物価高を背景に量販店でのバーベキュー需要や外食需要の伸びが見込まれる。

連休明けの和牛需要は低価格帯の部位への集中が続くとみられ、下値は安定するものの高級の相場は大幅な上昇が見込みにくい。

交雑種は連休前より弱含むものの、輸入牛肉の高値が続くなか下位等級は堅調な相場が予想される。乳用牛も出荷頭数の減少が続く見通しから、経産牛を中心に過去最高水準の堅調な相場が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,750	B4	1,800~1,900
A4	2,400~2,500	B3	1,700~1,800
A3	2,200~2,400	B2	1,600~1,700
A2	1,900~2,200		
乳牛去勢			
B3	1,400~1,500		
B2	1,300~1,400		

豚肉営業部

2026年3月の全国と畜頭数は138万6,157頭(前年同月比2.5%増)と前年を上回った。また、3月の豚肉通関数量も7万6,874t(同16.5%増)と前年同月から大きく増加した。内訳はチルドが4万1,129t(同22.9%増)、フローズンも3万5,745t(同9.9%増)。

2025-2026年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
2	73,952	65,442	23,465	186,194	73,310	69,425
3	78,207	76,792	24,895	186,013	76,584	76,973
比	103%	116%	102%	97%	101%	116%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

3月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,856	103.9%	デンマーク	1,644	104.2%
カナダ	22,976	132.6%	スペイン	1,897	20.7%
メキシコ	5,295	140.7%	メキシコ	5,213	144.6%
			アメリカ	6,530	183.7%
			カナダ	4,051	184.6%
合計	41,129	122.9%		35,745	109.9%

単位：t

<4月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	63,400	742	700	799
2日	60,600	751	723	771
3日	59,700	757	732	819
6日	59,700	755	739	723
7日	55,400	774	753	787
8日	60,300	760	716	776
9日	60,500	728	704	875
平均	59,943/日			793/日

4月に入り相場は上昇し、上物価格が700円を大きく上回った。お花見等の行楽需要の高まりに加え、出荷頭数が低調に推移し6万頭を下回る日もみられたことから、この時期としては異例の高値展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	58,400	729	697	1,002
13日	63,200	677	656	758
14日	62,300	709	676	941
15日	61,600	698	669	846
16日	62,300	697	671	912
17日	61,000	715	688	911
20日	64,800	715	705	883
平均	61,943/日			893/日

出荷頭数は上旬に続き低調に推移し、全国と畜頭数は6万頭台前半の日が続いた。上旬に実需以上に相場が高騰した反動もみられたが、700円絡みの底堅い展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	64,700	777	755	942
22日	61,300	801	780	882
23日	61,100	812	790	741
24日	63,000	845	825	1,037
27日	70,200	884	869	816
28日	68,000	929	882	1,037
30日	69,900	832	794	1,030
平均	65,457/日			926/日

ゴールデンウィークを控え、中旬の700円台から相場は急騰した。連休前の手当てに加え、円安の影響による輸入ポークの手当て難が重なり、28日には上物900円を超える高値相場となった。

<5月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和8年5月の肉豚出荷予測では117万2,000頭(前年同月比90.3%)と予測している。当市場の5月集荷予定せり頭数は1万6,000頭、1日あたりでは約888頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万8,100t(同97.4%)、内訳は冷蔵輸入量が3万8,100t(同110.4%)、冷凍輸入量は5万t(同89.4%)と予測している。

冷蔵品輸入量は、相場上昇による牛肉、鶏肉からの需要シフトの影響等から前年同月をかなりの程度上回ると予測している。同様に3カ月平均でも前年同期をかなり大きく上回ると予測している。

冷凍品輸入量はアフリカ豚熱発生による輸入一時停止措置の影響からスペイン産の減少が見込まれる。代替として北米産、ブラジル産等の増加が見込まれているが、全体では前年同月をかなりの程度下回ると予測している。同様に3カ月平均でも前年同期をやや下回ると予測している。

例年5月のゴールデンウィーク明けは出費の反動により消費者の節約志向が強まるため、末端需要は弱まる傾向がある。

供給面では、上旬は連休による出荷集中で一時的に頭数が増加するが、中旬から下旬にかけては昨年の猛暑による受胎率の低下や疾病の影響から出荷頭数は徐々に減少することが予想される。また、輸入量も現地相場高と円安で不安定な状況が続いていることから、国産枝肉相場は底堅い展開が予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は780円前後、中物平均価格760円前後の展開と予測する。

